

## 低気圧に伴う降雨における寒河江ダム・白川ダムの

## ※防災操作（洪水調節）効果について

～ 寒河江ダムは流入量及び調節量が  
既往最大値を記録しました ～

最上川ダム統合管理事務所管内では、低気圧に伴う降雨により平成25年7月18日、寒河江ダム、白川ダム、長井ダムにおいて防災操作（洪水調節）を実施し、下流河川の水位低減に効果を発揮しました。

各ダムの操作状況は次のとおりです。

	最大流入量	最大流入時における調節量
・寒河江ダム	約1,290m <sup>3</sup> /s	約1,030m <sup>3</sup> /s
・白川ダム	約330m <sup>3</sup> /s	約130m <sup>3</sup> /s
・長井ダム	約210m <sup>3</sup> /s	約120m <sup>3</sup> /s

この内寒河江ダムの最大流入量及び最大流入時における調節量は、平成3年の管理移行後の最大値を記録しました。

なお、今後しばらくの間、ダムからの放流がつづきますので、河川やダムの情報に注意してください。

※防災操作（洪水調節）：川の増水を少なくするため、ダムに流れ込む水を貯めて川の水の量を減量している状態です。

【発表記者会：山形県政記者クラブ】

## 問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所  
山形県西村山郡西川町大字砂子関158

副所長（技術） 高橋 長幸 （内線204）

調査課長 高橋 正志 （内線271）

電話 0237-75-2311（代表）

# 最上川水系 寒河江ダムの効果（平成25年7月18日 低気圧に伴う降雨） P1

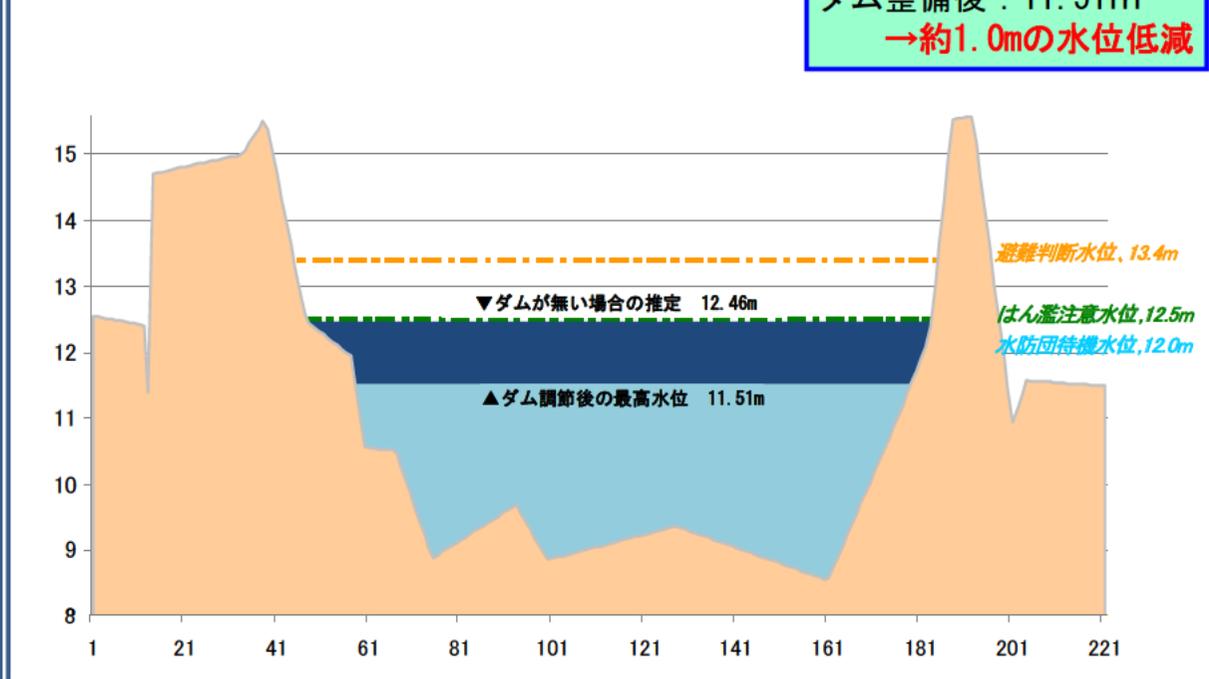
- 寒河江ダム上流域において、流域平均累加雨量は254.4mmを観測し、最大流入量は1秒間に約1,290立方メートルと平成3年からの管理移行後**最大の流入量**を記録しました。  
〔これまでの最大流入量 毎秒681.5立方メートル[平成7年8月10日洪水]〕
- 今回の洪水期間中における洪水調節量は最大で1秒間に約1,030立方メートルで、これは管理移行後**最大の調節量**となりました。  
〔これまでの最大調節量 毎秒620立方メートル[平成7年8月10日洪水]〕
- また、最大貯留量についても約1,620万立方メートル（東京ドームを容器とすると約13杯分）となり、管理移行後最大規模の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。
- ダム下流の西根地点（寒河江川下流基準地点）では、**約1.0mの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。

## 位置図



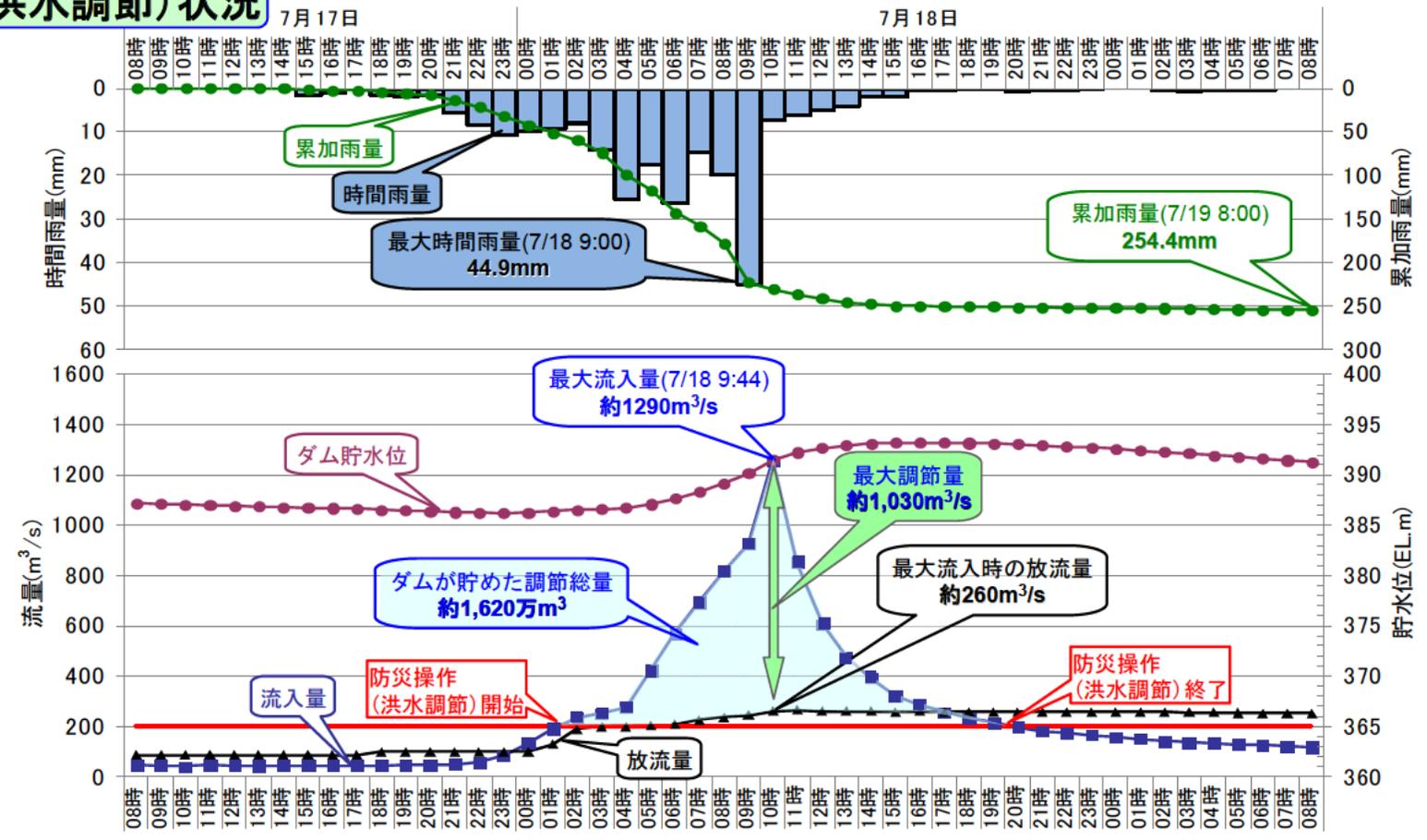
## 河川水位の低減効果（西根観測所）

ダム整備前：12.46m  
ダム整備後：11.51m  
→約1.0mの水位低減



# 最上川水系 寒河江ダムの効果 (平成25年7月18日 低気圧に伴う降雨) P2

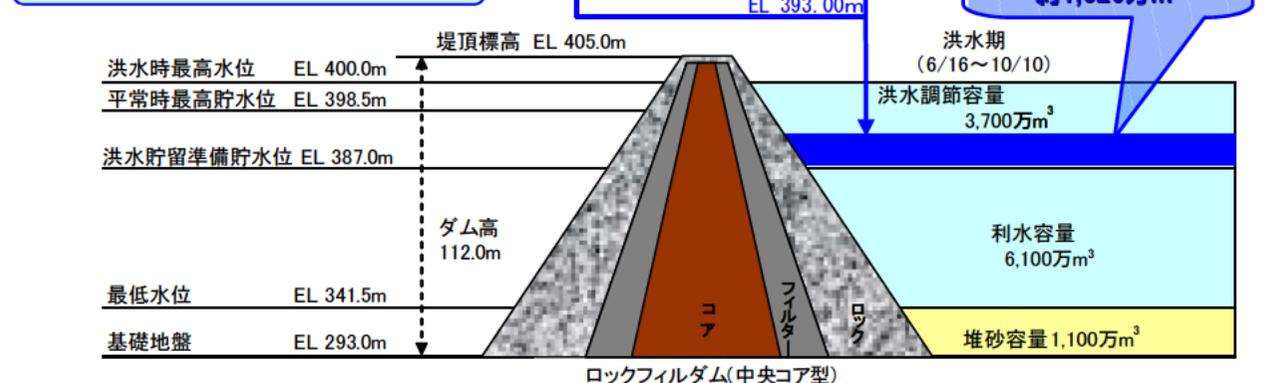
## 寒河江ダム防災操作(洪水調節)状況



## 寒河江ダム貯水状況 7/18 9:50



## 寒河江ダム貯水量配分



# 最上川水系 白川ダムの効果（平成25年7月18日 低気圧に伴う降雨）

- 白川ダムにおける、流域平均累加雨量は74.0mm、最大流入量は1秒間に約330立方メートルとなりました。
- 今回の洪水期間中において、最大約71万立方メートル（山形県庁を容器とすると約5.3杯分）の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。
- ダム下流の樁地点（置賜白川下流基準地点）では、**約0.4mの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。

